

「海藻押し葉で君も海のアーティスト!?!」

海藻といっても、一般にはコンブやワカメ、ノリ程度しかなじみがないかもしれませんが。でも海藻にはきれいな形や色合いのものがたくさんあります。そんな海藻を利用して、綺麗な絵はがきをつくる遊びが今ひそかなブームです。水産研究科では、8月4日に札幌ファクトリーで開催された「2005キッズサイエンスパーク」での子供達の科学体験コーナーで海藻押し葉を行いました。

海藻おしぼとは

海藻を紙の上に広げて芸術的な作品を作る遊びです。海藻の多彩な色や形を利用することで、草花で作る押し花と同様に綺麗にできます。北海道にはコンブをはじめとして200種類を超える様々な種類の海藻が分布しています。今回はテングサ、アオノリなど6種類の海藻を使って絵はがきを作ってもらいました。

当日の様子

キッズサイエンスパークでは、夏休み中の小学生に科学に親しんでもらうため、実験や工作など十数種の科学体験プログラムが行われました。原子力環境センターでは海藻押し葉のほか、スイカの糖度を品種別に糖度計で測り、実際に甘さがどう異なるか食べ比べてもらうプログラムを企画しました。



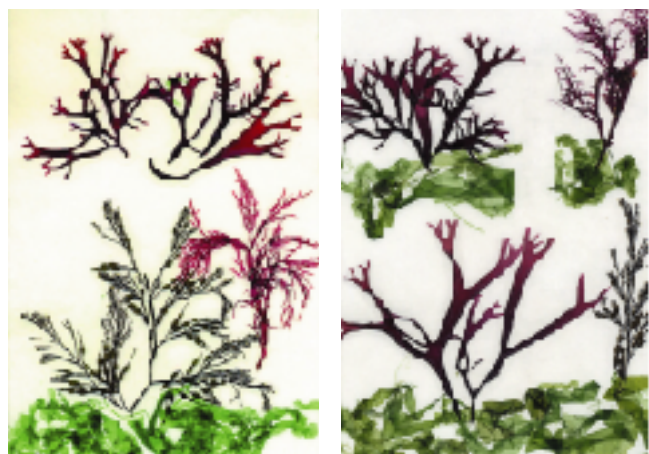
海藻について解説。ちゃんと聞いている?

海藻押し葉作成には15人ほどの小学生が参加し、そのほとんどは女の子でした。まず海藻の分類について解説を行い、それからハガキサイズの紙に自由に海藻を広げて好きな形を作ってもらいました。作成時間が20分程度と海藻押し葉には少々短かったのですが、皆それぞれ思い思いの形をつくっていました。潮の香りがする海藻を「くさい」という子供もいましたが、今回の海藻押し葉の作成によって、海藻に対して親しみが増したのではないのでしょうか。

作った海藻押し葉は、いったん原子力環境センターに持ち帰り、伸して乾燥させ、さらにはがれないようにラミネートして各ご家庭に郵送しました。夏休みの宿題はこれでばっちりです。



作成中。みんな真剣です。



作品例:夏休みの宿題に最適